第3章は化学嫌いな人には少しばかり読みづらいかもしれない．しかし見方を変えれば，詳細に化学を語っているということであり，実際の自然の中での応用例を通じて分析化学を学習できるとも言える．大気中から土壌を経て海に戻るまでの水を1つの溶媒として眺めながら，化学物質による汚染が生物へ与える影響を説明している．水と土壌，水と生態系，そして農業，漁業を経て人類へ到る相互関係のドラマに読者も引き込まれるはずだ．

最後の第4章は生物学あるいは生物化学にも関連深い．気象学にはほとんど関係ない内容かもしれないが，我々自身の健康に直結する話である．殺虫剤，除草剤，有機金属，そして昨今話題になっているダイオキシンなどが詳細に解説されている．我々は日々の生活の中で否応無くこれらの危険と向き合わなければならない．その際，これらの化学物質を無用に恐れるのではなく，正確な知識を蓄えた上で対処する必要があるのではないだろうか．

「訳者まえがき」には『最近出版される環境に関する和書は多いが，類書が見当たらないことに気付き，訳すことを思い立った．』とある．本文を読み進む間には，もっと分かりやすい翻訳文にして欲しかったと感じる部分も何度か出てきたが，このような書籍を日本語で紹介して下さった訳者には感謝したい．環境化学を勉強する必要に迫られている方にだけではなく，一般の啓蒙書では満足できない方にもお薦めの1冊である．

（気象研究所　関山　剛）

情報 File

第2回大気放射セミナー「地球・大気系の中の雲とエアロゾル」

この度，第2回放射セミナー「地球・大気系の中の雲とエアロゾル」を北海道にて下記の通り開催いたします．

前回の第1回大気放射セミナーでは，放射過程に関する基礎知識を勉強しましたが，今回はこれらの知識を利用して，地球環境についてより深く勉強しようと思います．今回は，環境要因のなかで放射過程と相互作用することによって地球気候の形成に深く関与する雲とエアロゾルを取り上げます．このセミナーでは，大気放射に係わる諸現象の基礎から衛星地球観測に至る応用まで，この方面の代表的研究者を招いて一連の講義形式で行います．また，同時に自由なディスカッションや若手のポスターセッションなどを通してこの方面の研究に携わる多くの研究者の交流を図りたいと思っていますので，ご関心のある方，奮ってご参加頂きますよう，お誘い致します．

記

期　日：2001年2月26日（月）13：30～2月28日（水）11：30

場　所：定山渓温泉　ホテル鹿の湯（札幌市南区定山渓温泉，Tel：011-598-2311）

主催者：セミナー実行委員会（委員長　中島映至）

申し込み方法：事務局までファックスにてお送り下さい．

事務局：東京大学気候システム研究センター
中島研究室　上野菜穂
Tel：03-5452-6384，Fax：03-5453-2325
E-mail：ueno@ccsr.u-tokyo.ac.jp